



遅野井川親水施設が 「自然共生サイト」に 認定されました

民間団体と行政の
協働による認定です!!

認定日：2023年10月25日
杉並区 / 遅野井川かっぱの会

環境省 HP



自然共生サイト



30 by 30



自然共生サイトってなあに？

国（環境省）が認定する「民間の取組等によって生物多様性の
保全が図られている区域」のことです。

自然共生サイトは、2030年までに、それぞれの国が、陸と海の30%以上を健全な生態系として保全しようという30by30とよばれる国際的な目標を達成するために認定されます。

認定区域は「保護地域以外の生物多様性保全に貢献している場所（OECM）」として、国際データベースに登録されます。

Other **E**ffective area-based **C**onservation **M**easures（その他の効果的な地域をベースとする手段）の略。生物多様性を効果的にかつ長期的に保全しうる地域のことをいいます（国立公園などの保護地区との重複を除く）。

OECM
とは？

遅野井川親水施設は、全域がOsonoigawa Brook（オソノイガワブルック）としてOECMに登録されます。※「brook」とは小川という意味。



環境省からのコメントを紹介します。

都市における貴重な水域生態系を対象とした自然共生サイトの設定は意義深い。認定を契機にぜひ健全な水循環の回復につながっていくように期待する。

親水スペースであることによる利用圧への対策について、利用自体を妨げることなく保護を図るエリアを拡げられるとよい。

これからも遅野井川を大切にいきましょう！

遅野井川 親水施設

杉並区善福寺2丁目31番（都立善福寺公園内水路）

身近に触れられ、潤いと安らぎを実感できる水辺空間を創出し、川への関心を高めるため、区民と行政との協働で取り組み、実現した親水施設です。

学校の敷地内を善福寺川が流れ、日頃から善福寺川で環境学習を行っている井荻小学校の子どもたちが、「自由に川へ入って遊びたい」との思いを「夢のほたる水路設計図」として区長に直接手渡したことがきっかけとなり、親水施設としての再整備を行ったものです。

整備にあたっては、草地広場や親水テラス等の親水機能を持たせるため、東京都の協力を得て、善福寺公園の一部を活用しています。

長い間、柵で囲われ、コンクリートの水路になっていましたが、かつては遅野井川と呼ばれる小川でした。子どもたちの遊び場だった頃の往時をしのび、訪れた人の憩いと安らぎの場として親しまれるよう、水路を「遅野井川」と名付け、施設名称を「遅野井川親水施設」としました。

遅野井川
名称の由来



遅野井川
かっぱの会

遅野井川親水施設は、計画段階から地域の声を取り入れられました。

その中で、区民が主体的に参加できる活動としての話し合いが持たれ、区民団体「遅野井川かっぱの会」が作られました。

区と協働して維持管理を行っています。

